

いわき農林水産ニュース

令和2年11月号(第189号) 発行 11月26日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



雪のような花卉の宿根カスミソウは冬のイメージにぴったり！ 家の中に「雪」を飾ってみませんか？

目次

- ・新しい福島県農林水産業振興計画策定に係る意見交換会を開催……………p.1～〔各種取組の実績(10～11月分)〕……………p.3～〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……………p.9
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.9
- ・令和2年産米のモニタリング検査結果……………p.9
- ・いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催します……………p.10
- ・農業者の方への収入保険制度のお知らせ……………p.10
- ・GAPコーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.12

特集

新しい福島県農林水産業振興計画策定に係る意見交換会を開催

県農林水産部では、新しい福島県農林水産業振興計画の策定に向けて、10月30日から11月19日まで、県内9か所で農林水産業者等の皆さまから意見を伺い、新しい計画の策定に反映するための地方意見交換会を開催しました。



(意見交換会の様子)



(挨拶をする根本所長)

このうち、いわき地方の意見交換会は、11月12日(木)に県

いわき合同庁舎において開催し、農業、林業、6次化の各分野で活躍されている6名の皆さま及び県森林審議会から緑川平壽委員にご出席いただき、それぞれの立場から農林業等に対する発言がありました。(詳細は次項を参照)

○「新しい福島県農林水産業振興計画の概要」

県農林企画課の鈴木課長から、新しい計画策定の基本的な考え方、基本目標「(仮)もうかる農林水産業の実現と誇れるふるさとの形成」、めざす姿や施策体系などについて説明しました。



○「いわき地方の振興方向」

当所矢吹企画部長から、「いわき地方の振興方向」と題して、スローガン「『サンシャインいわき』笑顔あふれる農林水産業の未来を目指して」のもと、4つの柱に基づく現状と課題及びこれまでの事業実施状況などについて説明しました。





○意見交換

6名の農林事業者の皆さまから現状や課題、対応策などについて御意見をいただきました。

箱崎 寿正 氏 【農業者（米）】
(有)東農園 代表 いわきコメの会 副会長



- ・いわき地方の基盤整備率は県平均より低い。競争力を高めるためほ場整備の推進が必要
- ・米価が低い浜通り地区を飼料米特区に指定して、安定経営と新規就農者の確保することがもうかる農業につながる

助川 弥生 氏 【農業者（野菜特産）】
農事組合法人 菊田の郷 助川農園 理事



- ・トマトのブランド化が大事
- ・親バカトマトと一緒に取り組む農家が増える支援が必要
- ・もうかる農業は販売が鍵
- ・県の販売促進事業で顧客が増加、IT 販売戦略の支援が有効
- ・いわき南部に道の駅を整備

草野 富夫 氏 【農業者（果樹）】
JA 福島さくら いわき梨部会 部会長



- ・担い手、後継者不足が深刻
- ・新規就農者のための経営モデルを示してほしい
- ・今後、更に GAP に取り組む農家を増やしていきたい
- ・消費者に喜ばれる梨の開発と売れる名前を希望する

四家 麻未 氏 【6次化実践者】
NPO 法人みどりの杜福祉会いわきファイナリー マネージャー



- ・高品質のワインづくりには高品質ブドウ栽培のための資材購入と栽培技術支援が必要
- ・鳥獣被害が急拡大しており、有効な対策を教えてください
- ・県ハイテクプラザでワインの醸造技術も研究、指導願う

木田 章一 氏 【林業者（普及啓蒙・緑化）】
NPO 法人いわきの森に親しむ会 理事長



- ・森林林業が SDGs の 2030 目標に大きく貢献する
- ・木育、森育、幼少期の自然体験、環境教育が重要
- ・来年4月いわき市木材利用促進条例を施行予定のため県でも条例化を進めてほしい

中野 光 氏 【林業者（林業・製材）】
遠野興産(株) 代表取締役



- ・素材生産地のいわき市の廃校に県林業研修施設を整備
- ・林業の現場に外国人が入れるように制度改正が必要
- ・全国の鳥居を木製に切替えや設計事務所が大径材を使うなど、木を使うPRが必要

緑川 平壽 県森林審議会委員



- ・農林業はもうからないから後継者不足につながる
- ・農地、林地ともに集積により大型機械で効率化
- ・山間地では6次化できる作物の栽培、加工、販売により経営が安定

【今後のスケジュール】

新しい福島県農林水産業振興計画は、今回の農林漁業者との意見交換会、市町村・関係団体等への意見照会、パブリックコメントによる意見等を踏まえ、関係する審議会を経て、令和3年度中に策定されます。この機会に皆さまのご意見をお寄せください。（企画部）



木とのふれあい創出事業出前講座を実施 [10月27・30日(火・金)、11月2日(月)]

森林環境税を活用して木工工作指導等を行う、木とのふれあい創出事業出前講座を福島県立いわき支援学校(p.11 地図参照)で実施しました。

4、5年生は主に釘打ちの練習をした後、花台を製作しました。中学部2年生ではそれぞれが思い描く街を木材を使って製作しました。講師として当所の職員のほか、田人林業研究会から豊田新一氏と緑川平隆氏を招いて、木工についてのより詳しい技術なども教えていただきました。また、前回に引き続き、遠野興産株式会社から端材を提供していただき、たくさんの木材とふれあう時間になりました。

子どもたちは、げんのうを使い木材に釘を打つ作業を初めて経験し、釘をまっすぐ打つ難しさや最後まで打ち込むことの大変さを実感していました。(森林林業部)



(児童が製作した花台)



(生徒が製作した街の様子)

りんどうセミナーを開催

[11月4日(水)]

川前町や小川町、四倉町の生産者で構成される JA 福島さくら川前りんどう生産部会のりんどうの販売力向上を目的に、令和2年度りんどうセミナーを開催しました。

株式会社いわき中央生花代表取締役の會田清氏と合同会社フローリストサイトー業務執行社員の石井利光氏を講師に迎え、市場や小売店としての目線から、出荷されるりんどうへの要望・提案についてご講演いただきました。意見交換では、りんどうの計画生産・計画出荷の必要性や品種などについて検討しました。



(いわき中央生花代表取締役の會田氏の講演)

当部では、今後も計画生産・計画出荷の実施や生産者と市場の連携強化を図りながら、いわき産りんどうの販売力向上の支援を実施してまいります。(農業振興普及部)



市内小学校で食育活動を実施 [10月21日(水)、11月5日(木)]

いわき市立好間第一小学校 (p.11 地図参照) において、「ふくしま食育実践サポーター」の佐藤良治さんによるさつまいもの栽培体験が行われました。6月に苗植えをしたさつまいもが収穫期を迎えた 10 月 21 日、佐藤さんが手順を説明した後、児童たちが畑のマルチやさつまいものつるを取り除く作業を行い、さつまいもを収穫しました。たくさんの大きなさつまいもを収穫することができ、児童たちは皆大喜びでした。

11 月 5 日には、さつまいも栽培を体験した 2 年生児童とさくら学級の児童に 1 年生児童が加わり、収穫祭が行われました。収穫祭では、2 年生児童によるさつまいもの劇が披露され、佐藤さんには感謝の手紙などが贈られました。

この活動を通して、児童たちは作物を育てることの楽しさや難しさを学ぶことができたうえ、地元の農業者と交流する貴重な体験となりました。 (企画部)



(さつまいもを収穫する様子)



(感謝の手紙が贈られた佐藤さん)

高校生林業見学会 (緑の青年就業推進事業) を開催 [11月5日(木)]

高校生林業見学会は、林業分野への新規就業者の確保に向け、高校生が見学や作業を体験し林業に対する興味や関心を持つことにより、若年層の林業就業希望者の裾野拡大と就業促進を図ることを目的として行っています。

今回の見学会には、福島県立磐城農業高等学校の 2 年生 37 名が参加し、いわき市森林組合が実施している川前町の森林整備の現場と小川町のいわき材加工センター小川工場 (製材工場) の見学、及びログハウスの組立体験を行いました。



(組立体験の様子)

生徒たちは、林業の現場は初めてとのことで、職員の説明を聞きながら機械による立木の伐倒や製材の作業を見学しました。また、ログハウスの組立体験では資材の組合せを確認しながら、一本丁寧に組み立てていました。

来年度も、伐採現場や製材所等様々な林業現場の見学会を計画し、多くの高校生に参加してもらいたいと思います。 (森林林業部)



「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン〔11月7日(土)〕

秋空の快晴の下、21世紀の森公園(いわきドリームチャレンジ2020会場内)(p.11 地図参照)において、認証GAPの取組や浜通りの復興状況のパネルを展示して、来場者に紹介するイベントを実施しました。

県産農産物に対する意識調査や認証GAPへの理解促進などを目的としたアンケート調査を実施し、ご協力いただいた方にGAP認証のいわき産の新米・ミニトマトなどをプレゼントしました。

また、プレゼントしたミニトマトの生産者である「(株)あかい菜園」さんから認証GAPの取組を説明し、来場者も真剣に耳を傾けていました。

今回のイベントは、いわき市の協力の下、相双農林事務所との合同開催、さらに隣接ブースでは県環境保全農業課による「ふくしま。GAPチャレンジスープ」の試食など、関係機関が連携して認証GAPをPRしました。

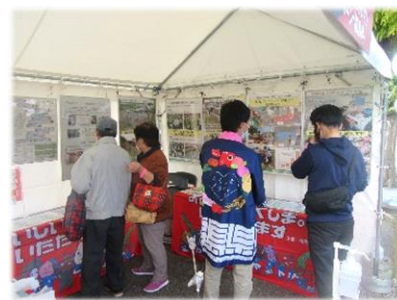
当所では、引き続き関係機関と連携し、いわき産農産物や認証GAPのPRに取り組んでまいります。(企画部)



(来場者にGAPについて説明)



(プレゼントを渡す様子)



(パネル展示の様子)

やさい教室収穫祭

〔11月9日(月)〕

いわき農業青年クラブ連絡協議会(以下、青年クラブ)が、いわき市立江名小学校(p.11 地図参照)において児童30名を対象に食育活動として「やさい教室収穫祭」を開催しました。

「やさい教室」は児童たちの農作業体験を通じて、農業を身近に感じてもらうことを目的としており、今回は青年クラブ員と共にさつまいものつるを取り除き、土を掘り起こしながらさつまいもを収穫しました。中には1kgに近い巨大さつまいももあり、児童たちは野菜の生命力に驚いている様子でした。収穫したさつまいもは、新型コロナウイルス感染症対策のため家に持ち帰ってから食べてもらうこととなりましたが、「おかあさんといっしょにスイートポテトを作る」、「てんぷらにして食べたい」など、自らの手で収穫したさつまいもをいち早く味わいたい様子でした。(農業振興普及部)



(収穫の様子)



Iwaki Laiki ライブキッチン [11月14・15日(土・日)]

JA・米卸業者・市などが活動を進める「Iwaki Laiki」戦略ブランド化推進本部では、いわき市石炭・化石館 ほるる (p.11 地図参照) において「出張 LIVE! おにぎり浅草宿六」を開催し、いわきの最高級コシヒカリ「Premium Iwaki Laiki」のおいしさと魅力を発信しました。

1日5回(各回12名)の入れ替え制で実施した本イベントには合計120名が参加し、会場では、「ミシュランガイド東京2019・2020」に掲載されている「おにぎり浅草宿六」店主の三浦洋介氏によるおいしいおにぎりの握り方のレクチャーが行われ、参加者は自分でおにぎり作りを体験しました。他にも、好みの具材の入ったおにぎりを目の前で三浦氏に握ってもらえる企画も実施され、参加者は貴重な「Premium Iwaki Laiki」を存分に味わいました。

また、11月13~17日には、湯本温泉の4旅館において日帰り入浴客に「Premium Iwaki Laiki」のおにぎりを振る舞う「モーむす。~温泉宿でモーニングおむすび~」が実施され、こちらも大好評でした。

なお、この事業は、県の「『ふくしまプライド。』県産農林水産物販売力強化支援事業」を活用しています。(企画部)



(参加者へおにぎりを振る舞う三浦氏)



(Premium Iwaki Laiki)



(旅館で提供されたおにぎり)

福島県林業祭を開催 [11月15日(日)]

二本松市の福島県男女共生センターにおいて、第45回福島県林業祭が開催されました。例年福島県林業研究センターにおいてイベント形式で行われておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、規模を縮小し、パネルディスカッションを行うこととなりました。「集え、若き杣人(そまびと)」と題し、林業の魅力と展望をテーマに、次世代の林業を支える担い手ら5名のパネラーによる討論が行われました。いわき市遠野町の(有)平子商店の平子美穂子専務もパネラーとして参加しました。この中で、林業を取り巻く環境や担い手確保に向けた取組等について意見が出され、会場に集まった約100名の参加者は真剣に耳を傾けていました。



(パネルディスカッションの様子)

なお、午前中には令和2年度福島県林業コンクール等の表彰式が行われ、林業コンクールにおいて福島県森林組合連合会代表理事会長賞を受賞したいわき市三和町の荻野誠さんや根本日出明さんなどに、表彰状が授与されました。(森林林業部)

**農事組合法人大野水耕生産組合の大和田正幸氏が農事功績表彰の
緑白綬有功章を受章**

〔11月20・26日(金・木)〕

11月20日、農事功績者表彰の緑白綬有功章を受章した大和田氏に対し、松崎農林水産部長による表彰状伝達式が県庁農林水産部長室において執り行われました。農事功績者表彰は公益社団法人大日本農会主催の表彰事業で農事改良の奨励または実行上顕著な功績をあげ、地域農業の発展に貢献した方などを表彰するものです。



〔左から松崎農林水産部長、大和田正幸氏、根本所長〕

大和田氏はトマト栽培において1年1作長期多段取りの先駆けとして高生産性を実現していることや複合経営(トマト・イチゴ・アスパラガス)の導入による経営の安定化、第三者認証

JGAPの取得など高い栽培技術を有し、継続的に経営改善に取り組んできたことが高く評価され、この度の受章となりました。このほか、サンシャイントマト出荷協議会の設立に尽力され地域のブランドトマト創出に貢献したことや、研修生の受け入れによる技術の普及や担い手の育成、年間を通して労働力を平準化した経営により地域の雇用を確保するなど、地域貢献の取組も高く評価されました。



(左から久保副市長、大和田正幸氏)

また、11月26日には大和田氏が受章報告のため、いわき市の久保副市長を表敬訪問しました。久保副市長からは、大和田氏に対しお祝いの言葉が述べられ、これまでの取組に敬意を表しました。

今後も地域農業のけん引役として、更なるご活躍を期待しております。

(企画部)

県営農村地域復興再生基盤総合整備事業大久地区で竣工式が開催〔10月14日(水)〕

大久公民館において、大久地区の竣工式が千軒平溜池土地改良区と大久地区ほ場整備組合の主催により開催され、来賓、地権者ら約50人が出席し、工事の完成を祝いました。竣工式では、ほ場整備事業の完了を記念し、建立された石碑の除幕式が行われ、その後、工事経過報告や来賓祝辞が行われました。記念碑には「決断と繁栄」の文字が刻まれ、事業完了までの道のりが記されています。



(記念碑除幕式の様子)

大久地区は、平成19年度に県営経営体育成基盤整備事業として農林水産省の事業採択となり、ほ場整備事業に着手し、東日本大震災以降は県営農村地域復興再生基盤総合整備事業に移行し、採択から12年の期間を要し、平成30年度に事業完了しました。総事業費12億6,600万円が投じられ、未整備だった81.8haの農地は区画整理が行われ、幅員の狭かった16.9kmの農道は拡幅され、土水路だった17.2kmの用水路は装工され、農作業の効率化が図られました。

今後は、今回のほ場整備を契機に担い手農家への農地の利用集積がより一層図られ、収益性の高い農業経営の実現が期待されます。

(農村整備部)

フレッシュ農業講座を開催

〔10月21日(水)〕

東日本国際大学附属昌平中学校の1年生(20名)及び3年生(12名)を対象に、令和2年度フレッシュ農業講座を開催しました。本講座は農業者との交流により、農業の魅力を伝え、地域農業に対する興味や関心を高めることを目的に開催しており、今年度はいわき市渡辺町において原木シイタケを栽培している「ファーマーズハウスさわ」(p.11 地図参照)を視察しました。視察先での原木シイタケの収穫体験、生産者との意見交換等では、生徒たちは珍しい原木シイタケ栽培の様子を目にして驚いている様子で、生産者との意見交換でも多数の質問が飛び交うなど、熱心に学んでいる様子でした。



(生産者の話を聞く生徒たち)

(農業振興普及部)

トピック1

磐城農業高校の太陽光型植物工場で野菜栽培が始まりました

今年10月に完成した磐城農業高校の太陽光型植物工場で野菜(トマト、ミニトマト、ホウレンソウ)の栽培が始まりました。本植物工場では、ほ場内の温湿度を管理する環境制御システムやヒートポンプ等が導入され、スマートフォンなどでいつ・どこからでも遠隔操作や状況確認ができます。



(仮定植されたトマトの苗)

栽培の中心となるトマト・ミニトマトは、10月下旬から定植を行い、12月頃から翌年7月頃まで収穫されます。今後は、生徒たちが中心となり、温湿度・水分管理をしながら栽培技術を身につけていく予定です。



(植物工場内の様子)

当部としては、栽培や認証GAPの維持更新など、磐城農業高校の取組をサポートし、今後、農業分野での活躍が期待される担い手の育成に努めてまいります。

(農業振興普及部)

復興支援・地域連携室員会議が東日本大震災・原子力災害伝承館を視察 〔10月26日(月)〕

いわき地方振興局復興支援・地域連携室員会議*が「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察しました。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の発生からまもなく10年となりますが、伝承館ではこの未曾有の複合災害の記録と教訓を集め、次の世代に継承する施設として県が双葉町に整備を進めていたもので、9月20日に開館しました。

館内では震災前の平穏な日常が震災・原発事故により大きく変化した状況をはじめ、震災直後の記録や長期化する影響への対応、そして住民や行政による新しいまちづくりの様子などが展示されているほか、語り部による被災体験等の生の声を聞くことができます。

当日は、小林孝副館長に館内を案内いただき、参加者は事故当時の状況や現在までの年月を振り返るとともに、防災への思いを新たにしました。

(企画部)

*管内の県の出先機関の長や国、市、商工団体の関係者による連絡会議



(東日本大震災・原子力災害伝承館)

お知らせ

いわき地方の出荷制限等品目

令和2年10月末日現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷が制限等されている品目は(表)のとおりです。

(表) 農林畜水産物の出荷制限等品目(令和2年10月末日現在)

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値(100Bq/kg)以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る)、わらび(野生のものに限る)*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

(企画部) ※わらび(栽培)は該当生産者15名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果(令和2年10月分)

農林畜産物の検査結果

令和2年10月の農林畜産物モニタリング検査では、7品目67検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムが検出されませんでした。内訳は(表)のとおりです。

(表) 品目と検体数

菌床しいたけ(施設)11、菌床なめこ(施設)1、くるみ1、レモン(施設)1、玄米48、牛肉4、原乳1

海産魚介類の検査結果

令和2年10月の水産物モニタリング検査では、163検体の魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムが検出されませんでした。(水産事務所)

令和2年産米のモニタリング検査結果

令和2年産米のモニタリング検査が10月14日に終了しました。全ての検体について放射性セシウムが検出されませんでした。農家の皆さま並びに関係機関・団体の皆さまには、検査への御理解・御協力をいただき、誠にありがとうございました。

モニタリング点数：計108点(36旧市町村(※)×各3点) ※米作付のない1旧市町村は検査対象外

モニタリング検査期間：9月14日開始～10月14日終了 (農業振興普及部)

トピック2

小名浜地区まき網漁業による「がんばる漁業復興支援事業」開始

11月1日からがんばる漁業復興支援事業が開始され、翌2日に小名浜港への初水揚げが行われました。本事業は、震災後、小名浜港への水揚げが大きく落ち込んでいることから、操業体制を見直すとともに、高性能運搬船を導入し、小名浜港への水揚げを拡大することを目的としています。まき網漁業は、魚を捕獲する網船1隻、魚群を探す探索船1～2隻、獲った魚を港へ運ぶ運搬船1～3隻の合計3～6隻で船団を構成します。本県には4船団が所属し、太平洋北部海域を中心にカツオやイワシ、サバ等を目的に操業しています。今回の取組では、高鮮度で魚を運搬できる船が導入されたため、より新鮮で美味しい魚が水揚げされることが期待されています。(水産事務所)



(今回導入された運搬船)



(水揚げされたサバ)

いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催します

いわきユナイト株式会社代表取締役植松謙氏によるコロナ禍における商品開発に関する講演のほか、ふくしま地域産業6次化サポートセンターのイノベーターによる販路開拓・商品プロデュース等の個別相談(要事前申込)を実施します。地域産業6次化に興味のある方は是非ご参加ください。

- 日 時：令和2年12月3日(木) 13:20~15:50
- 会 場：県いわき合同庁舎 4階大会議室(いわき市平字梅本15)
- 定 員：35名(先着順、要事前申込、参加費は無料です。)
- 主 催：福島県いわき農林事務所
- お問い合わせ&お申し込み



いわき農林事務所HPはこちら

いわき農林事務所 企画部 TEL:0246-24-6197

当所ホームページから申込用紙をダウンロードし、令和2年11月30日(月)までにお申し込みください。URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/iwaki-6zikanet.html> (企画部)

農業者の方への収入保険制度のお知らせ

自然災害を始め、様々なリスクから農業経営を守る「収入保険」制度が、平成31年1月から始まっています。ほぼ全ての農産物を対象に(肉用牛、肉用子牛、肉豚、鶏卵は対象外)、自然災害、価格低下、怪我など、農業者の経営努力だけでは避けられない収入減少が幅広く補償されます。加入できる方は、青色申告を行っている農業者(個人・法人)です。

令和3年を保険期間とする場合、申請期間は令和2年12月末までとなっています。ぜひ、様々なリスクを補償する「収入保険」への加入をご検討ください。

なお、福島県では新型コロナウイルスの影響を受けた農業者の方を対象に、保険料の一部助成措置があります。(福島県収入保険加入促進事業)

収入保険制度及び助成措置につきましては下記をご確認ください。

- 福島県農業経済課ホームページ
(収入保険について)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021e/kinyuu09.html>

(福島県収入保険加入促進事業について)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021e/kinyuu12.html>

【いわき地方における、加入等のお問い合わせ先】

福島県農業共済組合いわき支所 所在地 いわき市平五町目18-5
TEL:0246-24-1166

(農業振興普及部)

トピック3

サンマ初水揚げ

11月4日(水)

8月17日に小名浜港を一齐に出港したサンマ漁船の1隻が、11月4日の早朝に小名浜港で例年より1カ月ほど遅い今期初水揚げをしました。サンマは11月2~3日に岩手県釜石沖約400kmで漁獲された約20トンで、待ち望んだ秋の味の水揚げに、100~110gの小型の個体が多かったにもかかわらず、キロ当たり541~461円と、昨年の初水揚げより100円ほど高値で入札されました。

全国さんま棒受網漁業協同組合によると、10月末現在の全国のサンマ水揚げ数量は過去最低となった昨年漁期の64%の1万2千トンにとどまり、厳しい状況となっていますが、水揚げしたサンマ漁船の関係者は「やっと小名浜へ水揚げできた。型は悪くなく、今後も皆さんにサンマを届けていきたい」と意気込んでいました。



(サンマ水揚げ風景(小名浜港))

(水産事務所)

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

JGAP 認証取得者紹介 「草野いちご園」

令和2年10月18日、小川町の草野いちご園（下記地図参照）がJGAP認証を取得しました。

代表の草野秀穂さんは、安心安全の確保や販売力強化のためには第三者認証GAPが必要であると考えており、令和2年6月からJGAP認証取得に向けた取組を開始しました。以前より農薬の散布作業について記録するなど、GAPの考え方を取り入れていたため、取組を開始してから4ヶ月での認証取得となりました。

認証取得後、草野さんは、「倉庫、作業場等が整理され、肥料、資材の在庫などの経営の無駄がなくなりました。また、栽培から出荷までの工程で食品



(草野秀穂氏)

衛生・農作業安全の観点からリスク

評価を行い、作業者の労働環境を改善しながら、より安全ないちごが生産できるようになりました」と話していました。

いわき市では初めての土耕いちご栽培でのJGAP認証取得となりました。GAPに基づいて生産された安心安全な草野いちご園のいちごをぜひご賞味ください。

また、GAP取得に興味がある生産者の方は、当部（TEL 0246-24-6162）までご相談ください。

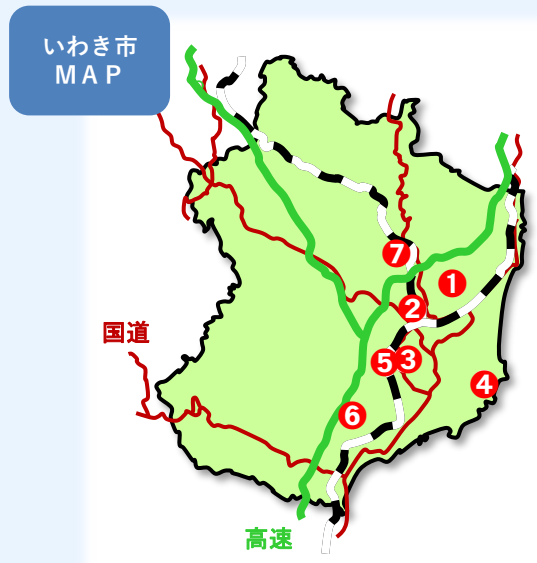
(農業振興普及部)



(GAPによる整理整頓の徹底)

今月号に掲載した場所はここです！

- ① 福島県立いわき支援学校 (p.3)
平上神谷字石ノ町 13-1
- ② いわき市立好間第一小学校 (p.4)
好間町上好間字馬場前 14
- ③ 21世紀の森公園 (p.5)
常磐湯本町上浅貝 110-33
- ④ いわき市立江名小学校 (p.5)
江名字天ヶ作 154
- ⑤ いわき市石炭・化石館 ほるる (p.6)
常磐湯本町向田 3-1
- ⑥ ファーマーズハウスさわ (p.8)
渡辺町中釜戸字大木田 65
- ⑦ 草野いちご園 (p.11)
小川町高萩字前川原 33



こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

川前町の「うねじり集落なたねの会」では、川前産の菜種100%を使用した無添加の食用菜種油「なのはなピュアオイル」をつくっています。

川前町宇根尻集落では、高齢化による後継者不足により増加した休耕田を活用するため、2018年に7haの菜種栽培を始め、今年で3年目になります。この菜種からつくられたのが「なのはなピュアオイル」で、川前町の特産品として定着させ、地域活性化につなげたいという地元の方々の思いが込められています。

原料の菜種は日本で開発された非遺伝子組み換え品種で、薬品を一切使わない圧搾法という手法でつくられており、安心してお使いいただけます。また、一番搾りのみを使用しているため、くせのない素直な風味を楽しむことができます。

炒め物にはもちろん、サラダのドレッシングや、贅沢に揚げ物に使うなど、どんな料理にも相性抜群です。ぜひご賞味ください。



なのはな
ピュアオイル

<販売価格>
270g: 700円(税込)
820g: 1,500円(税込)

<取扱店舗>
・いわきの里鬼ヶ城
・JA福島さくらの直売所
(いわき市内の店舗のみ)
・市内観光施設・宿泊施設
・飲食店など



うねじり集落
なたねの会

●いわき市川前町
川前字宇根尻196
●TEL.0246-84-2833



編集後記

今月は実りの秋らしく野菜の収穫に関する記事がいくつかありました。私も小学校での収穫体験を見学し、収穫したさつまいもをいただきましたが、甘くてとてもおいしかったです！

また、11月7日に実施した「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンは午前中にプレゼント配付が終了するほどの大盛況でした！アンケートにご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

いよいよ冬が近づき寒くなってきました。皆さまお体に気をつけてお過ごしください！ (企画部 K)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース